

新			旧		
		<p>O'Leary, Rosemary and Lisa Blomgren Bingham. 2007. A Manager's Guide to Resolving Conflicts in Collaborative Networks. Washington, D.C: IBM Center for The Business of Government: 6-35.</p> <p>Class Activities Student Presentations Discuss Readings</p>			
9	協働の能力とリーダーシップ	<p>共同行動のための重要な協働能力にはどのようなものがあるか？ 協調性のあるリーダーの主な特徴は？ 課題文献 Morse, Ricardo 2008, Developing Public Leaders in an Age of Collaborative Governance, 79-100. Page, Stephen. 2008. Managing for Results Across Agencies: Building Collaborative Capacity in the Human Services (Chapter Eight), In Lisa B. Bingham and Rosemary O'Leary (eds.). Big Ideas in Collaborative Management. Armonk, NY: M.E. Sharpe: 138-161.</p> <p>Class Activities Student Presentations Discuss Readings Students will work in teams on final</p>	9	協働の能力とリーダーシップ	<p>協働の能力は連携した活動に対してどのような意味をもつか 課題文献 Morse, Ricardo 2008, Developing Public Leaders in an Age of Collaborative Governance, 79-100.</p>

新			旧		
		<p>projects</p>			
10	行為と責任を評価し高める	<p>協働ガバナンスプロセスの成功をどのように評価するのか？ パフォーマンスの基準やモデルの成果をどのように指定するのか？ ブレインストーミングの結果の優先順位-私達の目的は何であるか。どのような結果が最も望ましいのか？ 協働ガバナンスの実践を困難にする課題は何か？ コラボレーションガバナンスにおけるキャリアのための課題 協調的なガバナンスと代替的な問題解決の重要性を評価する 協調的な問題解決によって最善の解決策があると思われる政策および/または社会問題の仮説を立てる これまでに議論してきた様々なアクターのパフォーマンスや成果を含め、協働ガバナンスの取り組みを評価するための基準を確立する 共同作業のモデルを比較し、それぞれの肯定的な結果の約束を評価する 情報と制度の両面から、協力関係を維持するための手段を戦略化する。 課題文献 Koliba, Christopher, K. Jack, W. Meek, and Asim Zia, 2011, Governance Network</p>	10	行為と責任を高める	<p>協働の成功をどう測るか 課題文献 Koliba, Christopher, K. Jack, W. Meek, and Asim Zia, 2011, Governance Network Performance Management and Measurement, Governance Networks in Public Administration and Public Policy, NY, 261-284.</p>

新			旧		
		<p>Performance Management and Measurement, Governance Networks in Public Administration and Public Policy, NY, 261-284.</p> <p>Provan, Keith G. and H. Brinton Milward. 2001. Do Networks Really Work? A Framework for Evaluating Public-Sector Organizational Networks. Public Administration Review 61(4): 414-423.</p> <p>Emerson, Kirk and Tina Nabatchi. 2015. Collaborative Governance Regimes. Georgetown University Press. Chapter 8. "Moving from Genus to Species: A Typology of Collaborative Governance Regimes." pp. 159-179.</p> <p>Class Activities Debrief second short paper assignment Student Presentations Discuss Readings Students will work in leadership teams on final project</p>			
1 1	最終報告と問題の検証	<p>学期を通しての学びを取り入れる 問題解決したいCGの問題・課題の背景を説明する 誰が関与しているのか、何が関与しているのか、課題は何か、コラボレーション/コラボレーション能力の準備は</p>	1 1	最終報告	セメスター全体から何を学んだか

新			旧		
		<p>できているか、リーダーシップはどうかなど、問題の徹底的な評価を提示すること</p> <p>プレゼンテーションの質、プレゼンテーションの流れ、チームワークの発揮、評価や質疑応答に積極的であること。</p> <p>課題図書 なし</p> <p>Class Activities 学生発表</p>			
1 2	最終プロジェクト：問題解決のプレゼンテーション	<p>学期を通しての学びを取り入れて、問題解決のためのガバナンスについてプレゼンテーションすること。その中には、関与計画、紛争管理の戦略、複雑さに対処する戦略、および解決行動の招集者、ファシリテーター、スポンサーの異なる役割、期待される結果、パフォーマンスを評価する方法などが含まれる。</p> <p>実際に問題を解決するための解決策を開発すること</p> <p>プレゼンテーションの質、プレゼンテーションの流れ、チームワークの発揮、評価や質疑応答に積極的であること。</p> <p>課題図書 なし</p>	1 2	最終プロジェクト	調査した問題解決に関する発表

新			旧		
		Class Activities 学生発表			
1 3	最終プロジェクト：問題解決のプレゼンテーション	<p>学期を通しての学びを取り入れて、問題解決のためのガバナンスについてプレゼンテーションすること。その中には、関与計画、紛争管理の戦略、複雑さに対処する戦略、および解決行動の招集者、ファシリテーター、スポンサーの異なる役割、期待される結果、パフォーマンスを評価する方法などが含まれる。</p> <p>実際に問題を解決するための解決策を開発すること</p> <p>プレゼンテーションの質、プレゼンテーションの流れ、チームワークの発揮、評価や質疑応答に積極的であること。</p> <p>課題図書 なし</p> <p>Class Activities 学生発表</p>	1 3	最終プロジェクト	調査した問題解決に関する発表
1 4	最終プロジェクト：問題解決のプレゼンテーション	<p>学期を通しての学びを取り入れて、問題解決のためのガバナンスについてプレゼンテーションすること。その中には、関与計画、紛争管理の戦略、複雑さに対処する戦略、および解決行動の招集者、ファシリテーター、スポンサーの異なる役割、期待される結果、</p>	1 4	最終プロジェクト	調査した問題解決に関する発表

新			旧		
		<p>パフォーマンスを評価する方法などが含まれる。</p> <p>実際に問題を解決するための解決策を開発すること</p> <p>プレゼンテーションの質、プレゼンテーションの流れ、チームワークの発揮、評価や質疑応答に積極的であること。</p> <p>課題図書 なし</p> <p>Class Activities 学生発表</p>			
1 5	最終プロジェクト：問題解決のプレゼンテーション	<p>学期を通しての学びを取り入れて、問題解決のためのガバナンスについてプレゼンテーションすること。その中には、関与計画、紛争管理の戦略、複雑さに対処する戦略、および解決行動の招集者、ファシリテーター、スポンサーの異なる役割、期待される結果、パフォーマンスを評価する方法などが含まれる。</p> <p>実際に問題を解決するための解決策を開発すること</p> <p>プレゼンテーションの質、プレゼンテーションの流れ、チームワークの発揮、評価や質疑応答に積極的であること。</p> <p>課題図書</p>	1 5	最終プロジェクト	調査した問題解決に関する発表

新		旧																									
	なし Class Activities 学生発表																										
<p>テキスト</p> <p>Emerson, Kirk, and Tina Nabatchi, Collaborative Governance Regimes, Georgetown University Press, 2015. その他の文献は授業ごとに指示。</p> <p>参考文献</p> <p>Carlson, Christine, A Practical Guide to Collaborative Governance: Policy Consensus Initiative, Portland, 2017.</p> <p>履修条件</p> <p>特になし</p> <p>評価方法・基準</p> <table> <tr><td>ショートペーパー1</td><td>10%</td></tr> <tr><td>ショートペーパー2</td><td>10%</td></tr> <tr><td>毎週の発表</td><td>10%</td></tr> <tr><td>最終発表とプロジェクト</td><td>40%</td></tr> <tr><td>授業参加度</td><td>20%</td></tr> <tr><td>出席要件</td><td>10%</td></tr> </table>		ショートペーパー1	10%	ショートペーパー2	10%	毎週の発表	10%	最終発表とプロジェクト	40%	授業参加度	20%	出席要件	10%	<p>テキスト</p> <p></p> <p>参考文献</p> <p></p> <p>履修条件</p> <p></p> <p>評価方法・基準</p> <table> <tr><td>ショートペーパー1</td><td>10%</td></tr> <tr><td>ショートペーパー2</td><td>10%</td></tr> <tr><td>毎週の発表</td><td>10%</td></tr> <tr><td>最終発表とプロジェクト</td><td>40%</td></tr> <tr><td>参加度</td><td>20%</td></tr> <tr><td>出席</td><td>10%</td></tr> </table>		ショートペーパー1	10%	ショートペーパー2	10%	毎週の発表	10%	最終発表とプロジェクト	40%	参加度	20%	出席	10%
ショートペーパー1	10%																										
ショートペーパー2	10%																										
毎週の発表	10%																										
最終発表とプロジェクト	40%																										
授業参加度	20%																										
出席要件	10%																										
ショートペーパー1	10%																										
ショートペーパー2	10%																										
毎週の発表	10%																										
最終発表とプロジェクト	40%																										
参加度	20%																										
出席	10%																										

新	旧
<p>授業参加度とは、授業に先立って指定文献を渉猟すること、課題レポートを提出すること、議論に参加し、よりよい学習環境をつくることに貢献することを指す。</p> <p>出席要件とは、毎回の授業に出席し、各授業で獲得目標となっている知識や予定されている活動、議論に参加することを意味する。もしならぬ都合で授業に出席できない場合、教員に相談し、参加できなかった学習や活動を補填することが求められる。</p>	

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (182-183 ページ)

新	旧
<p>Internship</p> <p>(中略)</p> <p>Enrollment Conditions None in particular (participants from Kumamoto University should have a high level of English proficiency)</p> <p>(以下略)</p>	<p>Internship</p> <p>(中略)</p> <p>Enrollment Conditions</p> <p>(以下略)</p>

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (186-187 ページ)

新	旧
<p>Special Research A</p> <p>(中略)</p> <p>Enrollment Conditions None</p> <p>(以下略)</p>	<p>Special Research A</p> <p>(中略)</p> <p>Enrollment Conditions</p> <p>(以下略)</p>

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (190-191 ページ)

新	旧
<p>Special Research B</p> <p>(中略)</p> <p>Enrollment Conditions Participants must have completed Special Studies A</p> <p>(以下略)</p>	<p>Special Research B</p> <p>(中略)</p> <p>Enrollment Conditions</p> <p>(以下略)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12-13 ページ)

新	旧
<p>5 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程の体系性</p> <p>1) 科目配置の特徴</p> <p>(中略)</p> <p>2) 成績評価の基準について</p> <p>上記に示したディプロマ・ポリシーとそれに対応したカリキュラム・ポリシーに従って体系的に配置した科目において、そのディプロマ・ポリシーやそれぞれの科目の達成目標に照らして、適切な評価方法・評価基準を定めており、それらについては、年度当初に授業計画書で公表する。予め授業計画書に明示した授業の到達目標と評価方法・基準に基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行なうことにより、教育の質を担保するとともに、社会からの信頼性を確保する</p> <p>また、期末試験だけによる評価でなく、小テスト、レポート、ディスカッション、授業への参加度等も含めた総合評価を行い、評価要素ごとに評価割合を明示する。</p> <p>3) 共同開設科目について</p> <p>(以下略)</p>	<p>5 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程の体系性</p> <p>1) 科目配置の特徴</p> <p>(中略)</p> <p>2) 共同開設科目について</p> <p>(以下略)</p>